

(平成28年 11月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	11月の水産物は、全般に漁獲が低調で、輸入魚も海外の需要が強いことから、全体の入荷量が低下した。 11月の総入荷量は、前年同月に比べると、加工水産物は前年並みであったが、鮮魚、冷凍魚で入荷量が下回り、全体として2%下回った。 総取扱金額は、前年同月に比べると鮮魚、冷凍魚は前年並みであったが、加工水産物は減少となり、全体として2%下回った。
(区分別の動向) 鮮 魚	11月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ4%下回ったことから、平均単価は5%上回った。 品目別には、よこわ、まあじが好漁で入荷が倍増となり、価格は値下がりした。ふぐ、あまだい、はまち、するめいか等は入荷が下回ったため、価格は値上がりした。 12月は鍋の季節が本番を迎える。養殖ふぐは生産が減少したため値上がりしているが、あんこう、かき、はまぐり等は求めやすい価格帯になりそうである。また、よこわ、ぶり、さわら等もこれから冬に向けて脂が乗る時期となる。
冷 凍 魚	11月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ6%下回ったことから、平均単価は7%上回った。 品目別には、冷さけは価格が若干値上がりしたが、荷動きも良く入荷は上回った。海外養殖えびは値上がりしたため、需要が低迷して入荷は大きく下回った。 12月は冷かきの最需要期となるが、たらばがに、ずわいがにともに海外需要が強く、さらに今期のずわいがにの漁獲枠が縮小された影響もあり、前年に比べ値上がりとなっている。

加 工 水 産 物	11月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ2%上回ったことから、平均単価は8%下回った。 品目別には、開干さんま、干水かれい、丸干いわしは入荷が大きく減少したため、価格は値上がりとなった。干ささかれいは入荷が上回ったことから、価格は値下がりした。11月6日に解禁となったずわいかには、オスのゆで丸かにの入荷が前年と比べ、若干減少したのに対し、メスのゆでせこがには、天候が悪く、漁獲が低調であったため、3割の減少となった。ゆでせこがにの漁期は12月31日までとなるため、12月は天候の回復による入荷の回復を期待したい。 12月の正月に向けた商材の価格見通しは、いくら、棒たらは漁獲が低調であった影響で、値上がりする見込みであるが、かずのこやかまぼこ等については、前年並みとなりそうである。
-----------	---

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	長崎，京都で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１０８％上回ったため，価格は１７％下回った。
ま い わ し	愛知，三重で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ５％下回ったため，価格は２４％上回った。
さ ば	千葉，韓国で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２０％下回ったため，価格は２１％上回った。
す る め い か	北海道，山形で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ８３％下回ったため，価格は６８％上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ，きはだまぐろ，めばちまぐろは前年並みであったが，本まぐろは８％下回ったことから，太物類の総入荷量は前年同月と比べ４％下回ったが，高価格の本まぐろの減少により，価格は２％下回った。
ぶ り	鹿児島，長崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ４％下回ったため，価格は２％上回った。
さ わ ら	鳥取，韓国で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月並みであったが，価格は５％上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ７％下回ったため，価格は１１％上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ４６％下回ったため，価格は６０％上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は前年同月と比べ，塩銀さけは４％上回り，塩紅さけは８％下回ったことから，塩さけの総入荷量は前年同月並みであったが，価格は塩紅さけが９％値下がりしたことから，塩さけ類全体では３％下

塩 か ず の こ	回った。 入荷量は前年同月と比べ２０％下回った。価格は一部で値上がりがあったが、前年並みの価格帯の製品が多く、全体で価格は３％上回った。
------------------	--